

にじ

高知医療センター こころのサポートセンター

..... P2~P4

高知医療センター

新任医師のご紹介 P5~7

■ 高知医療センターイベント情報 P8

5

MAY.2012 Vol.79



こころのサポートセンター「なごやか」フロアのナースステーション内の様子。

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1. 医療の質の向上
2. 患者さんサービスの向上
3. 病院経営の効率化



文責：山下元司こころのサポートセンター・センター長兼副院長

道路側から見た「こころのサポートセンター」



立ち上げ時期の現状

こころのサポートセンターが開設され、少し活動が始めたので、立ち上げ時期の現状をお知らせしたいと思います。こころのサポートセンターは医療センター本館の西側に耐震構造の2階建てで作られ、その1階が外来、2階が入院病棟となっています。さらにそれぞれの階が成人部門と児童思春期部門に分けられています。これは先行して作られた宮崎県立病院の精神科病棟を真似たところがあります。成人と児童思春期の患者さんを1つの看護単位（あるいは病棟）でみる仕組みは、宮崎と高知以外あまり採用したところがないだけに若干心配なところもありますが、まずはきちんと立ち上げることを目指したいと思います。

高知県は人口が減少していることもあり、精神科病床は過剰となりつつあります。そのような状況で、中心部から離れているとはいえ高知市内に新しい精神科病棟を作ることには反対の意見も多く、現在欠けている機能（だけ）を補充することが最初から考えられました。今の高知県の精神科医療に欠けているものは、身体合併症をもった精神障害者の治療を行える施設が非常に少ないこと、そして児童思春期の精神障害者の治療とくに入院治療を行える施設がないことでした。こころのサポートセンターは、そうした機能に限定して活動を行うこととなっています。

成人外来診療について

外来診療について説明します。医師数も限られているので、外来は紹介状のある患者さんだけを診察します。成人の外来は午前も午後も1つの診察室だけが開いていて、午前が新患、午後が再来患者さんの診察となっています。初診患者さんは本館正面玄関から入って、まず総合受付に立ち寄っていただき、その後、精神科病棟に入ったところの16番外来診療受付で受付をして診療を受けることができます。

とくに、当院での治療が向いていると思われるのは、50～60歳代のうつ病の患者さんです。こうした方であれば、さらに悪くなったときに当院での入院に移行することもできます。当院で現状、無痙攣電気ショック療法を行うことはできませんが、将来はそれができるようにしていきたいと思います。また、当院にはMRIとSPECTがあるので、アルツハイマー病の早期診断なども将来的には行っていきたいと思います。

当院精神科外来で対応できないものとして、パニック障害と大量服薬を繰り返す人がいます。こうした方は当院の救命救急センターを経由して随時来院され、精神科医が過労で倒れる可能性があるので、継続的な外来診療はお断りします。また、悪くなったときに最重症になりうる精神病性障害の患者さんの場合、入院での対応に限界があるので、外来診療そのものをお断りするかもしれません。

高知医療センターが電子カルテなので、その一部である、こころのサポートセンターにも電子カルテが入っています。すでに多くの民間精神科病院でも電子カルテが採用されているので格別珍しいことでないかもしれませんが、画面ばかり見て患者さんの顔を見ない診察にならないよう注意したいと思います。

診察室はそれぞれの室で扉を閉めることができるようになっており、他の診察室に声が伝わることはありません。



外来診察室（上）
外来待合（左）



入院病棟について

次に入院病棟の説明をします。成人部門は30床のベッドがあり、個室が主体となっています。受け入れる対象は、1) 精神科病院に入院していたが身体合併症が発生してその病院では治療できなくなった患者さん、2) 一般科の病院に入院していたが、精神症状のために身体疾患の治療がうまくいかなかった患者さん、3) (主として当院の) 救命救急センターを受診したものの、身体疾患の治療が終わっても自宅に帰れそうにない患者さんです。

入院患者さんは順次増えていますが、特に3) の救命救急センター経由の患者さんについては、精神科特有の法律制限で少しばかり苦労することがあります。救命救急センターは分や秒の単位で患者さんの処置をします

が、精神科への転科についてもその感覚での処理を求められます。そのことは十分理解できますし、できる範囲で協力したいと考えています。ところが、精神科への強制入院については、時間をかけて十分調査をしたうえで、やむをえないと判断された人だけ強制入院させるという法律上の制限のために、調子があわないこともあります。これは高知医療センターに限ったことではなく、日本中のどの救急を扱う病院でも直面する問題だと思います。

患者さんが精神科に入院することを自分で承諾し、自分で承諾書にサインできるような状態ならば、この面の苦労はないのですが、それができないような患者さんに限って入院の必要があるので、なかなか良い解決方法はありません。



入院の病室
(1床部屋)



入院の病室
(4床部屋)



陰圧にできる隔離室（認知症などがあり、本館の結核病棟で治療できないような患者さんの治療に使われます）

転院について

精神科病院からの転院については、患者さんあるいは家族が精神科の入院制度についてある程度理解しているので、法律上の問題はなくスムーズに転院できます。転院理由の身体疾患については、今の印象としてはやや終末期医療に偏りすぎているようにみられます。

転院の受入れについては、精神科が受諾し、身体科が受諾してはじめて成立します。無闇に受入れを断ることはありませんが、身体科の判断で来院を断ることは起こっています。依頼する病院としては一大事かもしれませんが、こちらの病院としても、一定の基準を満たす患者さんを受け入れるという基準を持つ必要はあるようです。

以上、細かすぎるところまで書いてしまったかもしれませんが、現状を説明するとしたら、このようになってしまいました。我々がやろうとしていることはそれほど単純なことではないので、開院して3ヶ月、6ヶ月、1年経った時

点で内容を分析して、相互の利益になるようにしていきたいと思います。

精神科病棟について一番心配されることは、30床の病床が慢性患者さんで埋まってしまって、患者さんが入退院がなくなることです。適切な入退院ができるよう、各位のご協力をお願いします。



こころのサポートセンター職員

児童精神科について

次に、児童精神科部門を説明します。こころのサポートセンターの児童精神科は、15歳（中学3年生）までの子ども達を対象に、2名の児童精神科医が診療を行います。

これまで、高知県内の公的医療機関で子どもを対象とした精神科専門外来を行っているところは、高知県療育福祉センターと高知大学医学部附属病院の子どものこころ診療部の2か所でした。療育福祉センターは発達障害のある子どもの受診が圧倒的に多く、多職種の専門家に

よる発達障害への包括的な支援、すなわち療育やリハビリテーション、学校や家庭に対する支援、さらには成人の方へ就労支援などを行っています。一方、高知大学医学部附属病院の子どものこころ診療部は、発達障害だけではなく、摂食障害、不安障害、気分障害、統合失調症などの精神疾患、あるいは不登校の状態を呈する子達など、子どもの心の問題に幅広く、対応しています。また、入院は成人と混合の開放病棟で行われ、摂食障害の子どもの入院が多いのも特徴です。

児童精神科の特徴

そして新しく開設されたこころのサポートセンターの児童精神科の特徴は、2つあります。一番の特徴は、児童専用の病床があることです。児童病床は14床あり、成人病床とは完全に区切られた空間となっています。児童専用病床のメリットは、生活や遊びを通して子ども同士の適切な関わり方を学べることです。また、病棟の構造は閉鎖病棟であり、精神症状や行動上の問題が激しい状態にある子どもの危機介入目的の入院に適しています。医師や臨床心理士、看護師、精神保健福祉士が協力して入院治療を行い、治療目標に向けて入院生活を支援援助する関わりの中で、大人との信頼関係を構築することは、子どもの心理発達の最も基本の重要なことです。病棟内には小学校と中学校の分校が設置されており、入院した子ども達は教育の保障を受けながら入院治療を受けることができます。

二つ目の特色は、児童福祉との連携です。児童相談所をはじめとする児童福祉機関は、様々な理由から学校や家庭で落ち着いて過ごすことのできない子ども達や保護者を支援しています。子どもの心の問題に対応するためには医療だけでは困難で、児童福祉との連携が欠かせません。そのために、迅速に児童相談所からの相談や診療

院内学級の教室



依頼に対応できる体制を作っています。

このように、療育福祉センター、高知大学医学部附属病院子どものこころ診療部、そして、こころのサポートセンターの児童精神科は、職員の配置や施設の違いによって異なった機能があり、うまく機能分担できれば、高知県全体のこの領域の子どもの医療がより円滑に進むことが期待されます。

児童精神科の課題

しかし、課題もあります。それは、初めて受診を希望された方が、予約をしてから受診するまでの待機期間が長いことです。高知のみならず、全国的に児童精神科への初診患者の待ち時間は数か月となっています。高知医療センターに児童精神科ができてこの問題は解消しません。それほど児童精神科の専門医の数より、ニーズが上回っているのです。この問題を解決するには、この領域の専門医を増やすしかないのですが、精神科医全体の人数が不足している中、難しい状況です。厚生労働省も子どものこころ専門医を増やすための事業を展開していますが、すぐには増えません。その1つの理由に、専門施設が少ないことがあげられます。児童精神科専門医をめざすためには病棟での研修が理想的ですが、全国に医療センターのような児童の専門病床をもつ病院は各県に一つあるかないかです。まだスタートしたばかりの病棟

ですが、専門医をめざす若手医師が全国から研修に来てくれるような、そういう病棟になることも今後の目標の一つです。



入院病棟・なごやかフロア

新任医師のご紹介

高知医療センターに新しく赴任された先生方のご紹介をいたします。

(昨年8月以降に赴任された医師を含む)



- ①所属科 ②経歴年数 ③所属学会 ④認定医、専門医、指導医など
⑤出身地 ⑥趣味 ⑦座右の銘 ⑧ひとこと (敬称略・50音順)



安部倉友 (あべくら ゆう)

- ①脳神経外科 ②5年目 ③脳神経外科学会 ④一 ⑤兵庫県 ⑥海外旅行 ⑦一
⑧静岡県から異動して参りました。若輩者ではありますが、高知県の脳卒中診療のお役に立てれば幸いです。よろしくお願い申し上げます。



阿部 光伸 (あべみつのぶ)

- ①整形外科 ②8年目 ③日本整形外科学会、外傷学会 ④一 ⑤徳島県 ⑥寝ること、食べること ⑦一
⑧初めまして。お久しぶりでもあります。高知医療センターでは2年間研修医として、整形外科として3年間勤務したことがあります。その後、2年間東京の病院で外傷をメインとして働いて、また帰って参りました。こちらでは脊椎・骨折などいろいろできればと考えております。またよろしくお願いいたします。



石川 勉 (いしかわ つとむ)

- ①泌尿器科 ②4年目 ③日本泌尿器科学会 ④一 ⑤岡山県 ⑥バレーボール、ダイビング ⑦なるようになる
⑧今回の赴任で生まれて初めて高知に来ました。仕事面でも生活面でも右も左も分からない状態ですが、周りの先生方にご指導頂きながら励んでいく所存ですので、宜しくお願い致します。



泉本 雄司 (いずもと ゆうじ)

- ①精神科(児童) ②20年目 ③日本精神神経学会、日本児童青年期精神医学会 ④日本児童青年精神医学学会認定医、日本精神神経学会専門医、日本精神神経学会指導医 ⑤兵庫県 ⑥自転車(ロードバイク、特にヒルクライムが好きです) ⑦一
⑧生まれも育ちも神戸ですが、高知医科大学に入学して以来、数年間の県外での生活を除き高知で生活しています。気がつけば、人生の約半分を高知で過ごしています。しゃべり方は関西弁と土佐弁が混ざっておりますが、ほぼ完全な土佐人と自負しております。ここ数年は児童精神科に専念してきました。今後も、高知の児童精神科医療に邁進していきたいと思っております。



稲垣 健志 (いながき たけし)

- ①病理診断科 ②8年目 ③日本病理学会 ④日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、インフェクションコントロールドクター(ICD) ⑤高知県 ⑥旅行 ⑦一
⑧自治医科大学を卒業し、高知医療センターでの初期臨床研修の後、地域医療に従事して参りました(幡多けんみん病院、大月病院、梶原病院、大崎診療所)。これまでの臨床経験を活かし、4月より病理診断の修行中です。ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



五石 圭一 (ごいし けいいち)

- ①形成外科 ②13年目 ③日本形成外科学会、国際形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会、日本創傷外科学会 ④日本形成外科学会専門医 ⑤兵庫県 ⑥音楽 ⑦一
⑧徳島大学、山口大学で主に再建外科、腫瘍外科を勉強し、約3年ぶりに高知医療センターに戻って参りました。まだまだ修行中の身ではありますが、精一杯がんばりたいと思っております。よろしくお願い致します。



住吉 公洋 (すみよし きみひろ)

- ①麻酔科 ②8年目 ③日本救急医学会等 ④日本麻酔科学会認定医、麻酔科標榜医 ⑤熊本県 ⑥テニス、ゴルフ、スキー等のスポーツ、旅行、その他いろいろ ⑦石の上にも三年、一期一会
⑧熊本県の人吉高校出身です。そのため、ちょっと違った感覚を醸し出しているかもしれませんが、いろんな方とお話できたらと思ってます。人が好き、自然が好き、スポーツが好きで、基本はいろんなものに興味を持つほうなので、何かあればお声をおかけくださいましたら幸いです。高知は初めてなので、よろしくお願いします。

新任医師のご紹介（敬称略・50音順）

高知医療センターに新しく赴任された先生方のご紹介をいたします。（昨年8月以降に赴任された医師を含む）

①所属科 ②経歴年数 ③所属学会 ④認定医、専門医、指導医など ⑤出身地 ⑥趣味 ⑦座右の銘 ⑧ひとこと



津田 達也（つだ たつや）

①形成外科 ②4年目 ③日本形成外科学会 ④一 ⑤徳島県 ⑥居合、ビリヤード ⑦なんとかなる
⑧3月に徳島大学病院から赴任してきました。高知の病院で働くのは初めてですが、早く慣れて少しでも地域の患者さんの力になれるようがんばります。まだまだ未熟な所が多くご迷惑をおかけするかとは思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



轟 貴史（とどろき たかふみ）

①呼吸器内科 ②12年目（呼吸器膠原病内科6年、循環器内科5年） ③一 ④総合内科専門医 ⑤兵庫県
⑥ゴルフ、声楽、子育て ⑦一
⑧JA高知病院から転勤して参りました。呼吸器だけではなく心臓、腎臓、生活習慣病など総合的に診て参ります。よろしくお願いいたします。



沼本 邦彦（ぬもと くにひこ）

①整形外科 ②11年目 ③一 ④日本整形外科学会専門医 ⑤岡山県 ⑥最近は子育てに専念しています ⑦一
⑧整形外科の中では稀な領域ですが、骨軟部腫瘍を専門に仕事をさせていただいております。ここに赴任する前は愛媛の四国がんセンターで1年、東京のがん研究センター中央病院で3年間研修させていただきました。これまでの経験を活かし、高知の医療に貢献できるよう1例1例を大事に診療させていただきますので、よろしくお願いします。



根来 裕二（ねごろ ゆうじ）

①腫瘍内科・消化器内科 ②12年目 ③消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓学会、消化器免疫学会、臨床腫瘍学会 ④日本内科学会認定医、消化器病学会認定専門医、消化器内視鏡学会認定専門医 ⑤高知県 ⑥音楽鑑賞、F1観戦 ⑦一
⑧郷里高知に18年ぶりに帰って参りました。欠員で1人に減った腫瘍内科の助っ人のはずが逆に1人残される立場に立たされ、前途多難。出来ることに限りはありますが、状況が状況だけに周囲の温かい眼に見守られながら、微力を尽くして参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



原文 祐（はら ぶんすけ）

①救命救急科 ②9年目 ③一 ④日本DMAT隊員、日本外科学会専門医、MC協議会指導医、厚生省臨床研修指導医 ⑤大阪府 ⑥体力作り、ご当地グッズを集めること、隠れクマノミ ⑦なにくそ精神
⑧外傷学の第一人者である村田厚夫先生に弟子入りすべく、意を決し滋賀より赴任して参りました。外傷は、現場・初療・手術・集中治療まで一貫した方針が重要と考えております。ヘリ救急では迅速な判断と度胸が重要で、救命のためにはあらゆる治療を厭わない積極的姿勢で臨みたいと考えております。上司や同僚に一日でも早く追いつくことができるよう「なにくそ精神」で頑張り、傷病者の救命のために、真っ白な灰になるまで燃え尽きる決意であります。



弘田 りさ（ひろた りさ）

①精神科 ②5年目 ③日本精神神経学会、日本社会精神医学会 ④一 ⑤高知県 ⑥茶道 ⑦足るを知る
⑧こころのサポートセンター新設に当たり、私にできる仕事を一つずつ、務めていきたいと存じます。ご迷惑をかける事も多いと思いますが、よろしくお願い申し上げます。



藤原 聡史（ふじわら さとし）

①消化器外科・一般外科 ②7年目 ③外科学会 ④一 ⑤徳島県 ⑥スポーツ（ゴルフ、サッカー、バスケ） ⑦一
⑧高知へ来て早3年目になりました。龍馬伝の影響もあり、土佐弁にも大分慣れてきました。高知の医療に少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



松三 博明（まつみ ひろあき）

①循環器内科 ②6年目 ③日本循環器学会、日本内科学会 ④一 ⑤岡山県 ⑥サッカー ⑦一
 ⑧本年4月より循環器内科として勤務させていただいております。出身大学は高知大学で、卒業後、呉共済病院で初期研修後、岡山大学病院、大阪市立総合医療センターで勤務し現在に至ります。少しでも高知の医療に貢献できるように一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。



丸山 秀彦（まるやま ひでひこ）

①小児科 ②14年目 ③小児科学会、周産期新生児医学会、未熟児新生児学会、人類遺伝学会、先天代謝異常学会 ④小児科専門医、新生児専門医、臨床遺伝専門医 ⑤岡山県 ⑥よさこい ⑦もう一回試す
 ⑧約10年前に高知県立中央病院で研修後、岡山大学、大阪府立母子保健総合医療センター、岡山医療センターにて更に研修を積んで戻って参りました。主に、新生児を担当しておりますが、遺伝や染色体などにも興味を持って取り組んでいるところです。至らぬ点もありますが、どうぞよろしくお願いします。



宮崎 聖也（みやざき せいや）

①総合診療科 ②15年目 ③日本内科学会、日本消化器病学会 ④日本医師会認定産業医 ⑤高知県 ⑥ジョギング、フットサル、サッカー観戦 ⑦一
 ⑧この4月より高知医療センター総合診療科に赴任してまいりました。自治医科大学を卒業後、これまで主に高知県の地域医療に従事してまいりました。地域の医療機関と連携し、患者さんの紹介などで多くの先生方のお世話になると存じます。専門的な診療はできませんが、わかりやすい診療を心がけていきたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



宮地 剛（みやじ つよし）

①循環器内科 ②10年目 ③日本循環器学会、日本内科学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本心臓病学会、心臓リハビリテーション学会 ④日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医 ⑤高知県 ⑥ゴルフ ⑦一
 ⑧今年4月から循環器内科に赴任してまいりました。高校卒業以来、約20年ぶりに高知県に帰ってまいりました。今後、高知県の医療のために貢献できるよう努力いたしますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



山本 寄人（やまもと よりと）

①産婦人科 ②16年目 ③日本産婦人科学会、日本癌治療学会、日本婦人科腫瘍学会、日本がん検診・診断学会 ④産婦人科専門医、日本がん治療認定医、がん検診認定医 ⑤高知県 ⑥一 ⑦起きて半畳寝て一畳、天下取っても二合半
 ⑧高知大学医学部附属病院より昨年9月に赴任しました、大学では主に婦人科を担当させていただいていましたが、こちらでは産科も担当させていただいています。未熟でなにかとご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いします。



吉岡 知子（よしおか ともこ）

①精神科 ②11年目 ③日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会 ④精神科専門医 ⑤徳島県 ⑥音楽鑑賞 ⑦為すべきことを為せ
 ⑧高知医大を卒業後、高知大学、高知県立芸陽病院などで勤務していました。児童精神科を志し、H19年からH22年にかけて三重県立小児心療センターあすなろ学園で研修を受けました。今年度から稼働するところのサポートセンター児童精神科で、精一杯子どもの精神科医療にまい進したいと思います。至らぬ点多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

昨年8月以降に高知医療センターに赴任された医師を含め、
 20名をご紹介します。今後ともよろしくお願いいたします。

訂正：前月号P7にて掲載いたしました退職医師名に「泌尿器科 倉橋寛明（H24.3.31付）（敬称略）」の掲載漏れがありました。



日	曜	高知医療センターイベント情報 ～5月～					
13	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2012 （参加費要、事前申込要）					
		内容	がんと放射線治療	講師	高知医療センター がんセンター センター長 森田莊二郎 氏		
		場所	高知新聞放送会館東館8F 81号室	時間	10:30～12:00	対象	一般(70名)
		主催:高知新聞社、高知医療センター 協賛:アフラック高知支社 主管:高知新聞社 お問い合わせ:高新文化教室 電話:088(825)4322 (受講料9600円/12回、1500円/1回)					
16	水	高知医療センター看護局・新人看護師研修 他施設公開研修 （参加費無料、事前申込要）					
		内容	与薬技術3	講師	高知医療センター 認定輸血検査技師教育担当者		
		場所	高知医療センター1F 研修室2、3	時間	15:00～17:00	対象	看護職員(募集5名)
		お問い合わせ:高知医療センター看護局 教育担当 FAX:088(837)6766					
17	木	高知医療センター看護局・新人看護師研修 他施設公開研修 （参加費無料、事前申込要）					
		内容	救急看護1	講師	高知医療センター 救急看護認定看護師		
		場所	高知医療センター1F 研修室2、3	時間	13:00～17:00	対象	看護職員(募集9名)
		お問い合わせ:高知医療センター看護局 教育担当 FAX:088(837)6766					
26	土	第23回地域医療連携研修会 （参加費無料、事前申込不要）					
		内容	子宮内膜症と子宮筋腫～女性のライフスタイルに合わせた管理と治療法について～	講師	高知医療センター 婦人科 科長 木下宏実 氏		
			不妊予防～私を私が大切に作る～		高知医療センター 看護局 不妊症看護認定看護師 北村明子 氏		
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	14:00～15:40	対象	医療従事者
お問い合わせ:高知医療センター地域医療センター 地域医療連携室							
6/10	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2012 （参加費要、事前申込要）					
		内容	消化器がんに対する抗がん剤治療について	講師	高知医療センター 腫瘍内科 副医長 根来裕二 氏		
			外来化学療法室からのお話		高知医療センター 看護局 化学療法看護認定看護師 清遠朋己 氏		
		場所	高知新聞放送会館東館8F 81号室	時間	10:30～12:00	対象	一般(70名)
主催:高知新聞社、高知医療センター 協賛:アフラック高知支社 主管:高知新聞社 お問い合わせ:高新文化教室 電話:088(825)4322 (受講料9600円/12回、1500円/1回)							
14	木	第12回高知医療センター(内科系)症例報告会 （参加費無料、事前申込不要）					
		内容	症例報告				
		場所	高知医療センター2F くろしおホール	時間	19:00～	対象	医療従事者
		お問い合わせ:高知医療センター 地域医療連携室					

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

ボランティアは病院職員ではないが病院職員と同じように扱う、というのが当医療センターの流儀です。医療チームの一員として、患者さんに関わっていただくというスタンスを開院前から貫いていることから当然のことと考えています。活動メニューのなかでももっとも職員に近いものが「入院案内」です。皆さまの施設から紹介いただき来院される患者さん。非日常の環境のなかで「ひどい病気じゃないよね」「手術は成功するよね」と気丈に見えても少なからず不安を抱いて入院してこられるはず。ボランティアはそんな患者さんに近い立場で患者さんに寄り添いながら、入院フロアのベッドまでご案内していきます。ただし、ボランティアによるご案内は月・火・木の午後入院のみ。わずかな時間ですが気持ちが通じるのか、通院の時にもボランティアさんに同行してもらいたいという患者さんが時々いらっしゃるようです。(まごころ窓口 中村)



平成24年5月1日発行
にじ 5月号(第79号)
責任者:武田 明雄
編集人:地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元:地域医療センター
地域医療連携本部
印刷:株式会社高陽堂印刷
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www.khsc.or.jp/>